

gpv_tools

./gpv_tools/01.get_gpvmsm.csh

京大大学生存圏研究所(気象庁データのアーカイブ)
(※**教育研究機関向けの再配布。**)

<http://database.rish.kyoto-u.ac.jp/arch/jmadata/>

から、上記スクリプト内の\$year, \$mn, \$dy, \$hrを指定して、
grib2形式の(1) 気象庁メソ解析(GPV-MSM)をダウンロードする。
(必要に応じて、プロキシサーバの指定を行う)

環境にwgetが無い場合は、手動でダウンロードして、
./gpv_tools/GPVMSM/に格納する。

./gpv_tools/02.gpvmsm2grads.csh (次項参照)

上記msm2binを使ってGPV-MSMを解読し、(2) 必要な変数、領域、予報時間を切り出し、(3) GrADS形式で保存する。

(msm2binは防災科研・清水慎吾さんの作成したツールで、ご本人の了解を得て使用)

gpv_tools

(1) 気象庁メソ解析 (GPV-MSM)

約11km間隔 (東経120-150度、0.125度間隔、北緯22.4-47.6度、0.1度間隔) の等気圧面の気象解析値 (観測データを同化したもの)。

(2) 領域と予報時間の切り出し (整数である必要がある)

set lonmin	=	西側境界経度
set lonmax	=	東側境界経度
set latmin	=	南側境界緯度
set latmax	=	北側境界緯度
set fhours	=	予報時間 (解析値をつなぎ合わせた過去再現実験を行う場合は0で良い。最大39まで指定可能)

(3) GrADS

地球流体力学系“direct access”バイナリデータを描画するプログラム。各種OS用のプログラムは、下記webページからダウンロードできる。VDVGEも、同形式のバイナリデータを扱う。

<http://www.iges.org/grads/downloads.html>

gpv_toolsの実行の流れ

- (1) ./01.get_gpvmism.csh もしくは、手動にて、**計算に必要な日時の気象庁メソ解析 (GPV-MSM)**を、./GPVMSMフォルダに、ダウンロードする。
- (2) ./srcのMakefileの**cとfortranのコンパイラを指定して**、makeでコンパイル、msm2bin, reorder.exe, compile.exeが出来る。
- (3) ./02.gpvmism2grads.cshの**計算領域と予報時間を設定して実行**し、./GPVMSM_grads/にgrads形式ファイル(.ctlと.datの1セット)を格納する。